

活動報告：『高校生のための思索ノート』（コールサック社）

仙台白百合女子大学人間学部人間発達学科
特任教授 高橋正人

東北大学でフランス語を学んだ頃が懐かしく思い起こされます。

当時、教養部のフランス語は、大木健教授、原二郎教授、佐藤房吉教授、泉田武二教授など錚々たる方々でした。そして、学部・大学院時代は鎌田博夫教授、伊地智均教授、ジョルジュ・ヴォワッセ先生にご教授いただきました。先輩院生の方々の幅広い研究に目を開かせられた日々が今でも記憶によぎります。

本書は、高等学校学習指導要領に基づく新科目「文学国語」における探究的な学びを企図した高校生に向けたブックレットです。

内容は、是枝裕和「ヌガー」、川上弘美『神様 2011』、石沢麻依『貝に続く場所にて』アーノルド・ローベル『お手紙』、斎藤隆介『モチモチの木』、ヘッセ『少年の日の思い出』、永島慎二『漫画家残酷物語』、映画『トゥルーマン・ショー』『東京物語』、ネルヴァル『シルヴィ』など小・中・高等学校の国語教科書の教材を始め、印象に残った作品を基にした一種の思索のためのアンソロジーです。一つ一つの作品をもとにして、その作品から連想されるテーマの関係性に思いをはせながら、作品の世界が網の目のように広がったり、深まったりしていく様子を感じ取ってほしいと思います。

なお、私にとって新美南吉の『ごんぎつね』（フランス語訳 *Le petit renard Gon* も素晴らしいです。）は忘れられない作品です。これからフランス文学に興味を持った高校生にとって、生涯にわたる一冊の本との出会いが思索を深め、人生をより豊かなものとしてくれるものと思います。本書がその契機となっていたければ幸いです。

併せて、本書を通して、復興が一步でも進むことを念じてやみません。